

業績目録の記入要領・記載例（助教・助手）

- ※ 最近のものから順に記載すること。
- ※ 著者リストの本人の氏名を太字にて、下線をひくこと。
- ※ 共著者が多数の場合は適宜省略し、何人の共著者中の何番目の著者かわかるようにすること。
- ※ 印刷中のもので代表的なものは業績の中に含めることができる。ただし、発行者側の査読等を経て正式に受理されたものとする。「印刷中」と明記するとともに、掲載証明書を添付すること。

1) 著書

- ・著者・書名・分担項目名・初頁～終頁・発行所・年の順に記載する。

1)	著書
1.	<u>滋賀 花子</u> 、 <u>滋賀 太郎</u> ：〇〇に関する研究、今日の外科治療 改定第2版（山田太郎編）、〇〇出版、50-75、2015
2.	Shiga H , Shiga T, Otsu A. Characterization of 〇〇. in Modern therapy (White PA. ed) Churchill Livingston, 25-32, 2010
3.	...

2) 学術論文

- ・著者・題目・雑誌・巻・初頁～終頁・年の順に記載する。
- ・査読の有無を記載する。
- ・Corresponding author である論文を明記する。
- ・共同で第一著者の場合等は PubMed などの順位のままとし、*マークを付けて **equally contributed** であると記載する。
- ・論文種類の定義については医中誌による分類法 (<https://www.jamas.or.jp/database/policy2.html>) を参照のこと。ただし症例報告は下記の例の様に原著論文と分けて記載する。letter (論文形式でないもの) や **commentary** はその他に記載する。

2)	学術論文
	欧文原著
1.	Tokyo S, Shiga H , Miyagi A, Osaka B, Yamaguchi D, Shiga T. Preserving ■□ cell function is the major determinant of △△ in Japanese patients. Surgery . 159: 817-826, 2019 査読付
2.	Shiga H (corresponding) , Aichi H, Ehime O, Okayama T, Shiga T. Tyrosine kinase receptor TEX is a key regulator of oncogenesis in colon. Nature . 540: 547-555, 2018 査読付
3.	Chiba A*, Shiga H* (equally contributed) , Yamaguchi D, Osaka B, Nara B, Hyogo J, Shiga T. Impact of △△ in the patients with 〇〇 disease: a randomized clinical trial. Surgery . 160: 123-132, 2017 査読付
4.	...
	欧文総説
1.	Shiga H , Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of 〇〇 in humans and their potential links with Immune system. Cell . 150: 256-265, 2010 査読付
2.	...
	欧文症例報告
1.	Kumamoto A, Tokushima O, Kochi D, Shiga H , Okayama M, Yamaguchi D, Osaka K, Nara B, Hyogo J, Shiga T. A case of 〇〇 disease with family history of hypertension. BMJ open case reports . 160: 123-132, 2017 査読付
2.	...

<p>欧文その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Shiga H, Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of ○○. What is the current challenge? <i>Oncogene</i>. 150: 256-265, 2010 Commentary 査読付 2. ... <p>和文原著</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子 (corresponding)、滋賀 太郎：●●に対する新規治療 XX の効果は長期予後に有用である、△△学会誌、12: 130-137, 2019 査読付 2. ... <p>和文総説(依頼原稿含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子、滋賀 太郎：●●における XX の治療、○△学会誌、43: 13-17, 2014 査読付 2. 滋賀 太郎、滋賀 花子：最新の XX の治療に関する Topic、今日の○○、10: 250-256, 2013 査読なし 3. ... <p>和文症例報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子、山口 大介、滋賀 太郎：○○病に対して新規抗がん剤 X が著効した一例、◆□雑誌、40: 12-18, 2018 査読付 2. ... <p>和文その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子、滋賀 太郎：●●病治療ガイドライン 2018、△△学会誌、11: 1-12, 2018 ガイドライン 2. ...

3) 学会発表

・特別講演・シンポジウム・教育講演・一般演題（口演・ポスター）について、演者名・題目・学会名・発表年の順に記載する。

<p>3) 学会発表</p> <p><国際学会> 特別講演</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Shiga H, Shiga T. Molecular mechanisms of oncogenesis of ○○ in humans and their potential links with Immune system. <i>53rd Annual meeting of American Cancer Association</i>, 2011 <p>シンポジウム・教育講演 なし</p> <p>一般演題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Shiga H, Kumamoto A, Tokushima O, Kochi D, Okayama M, Yamaguchi D, Osaka K, Nara B, Hyogo J, Shiga T. A case of ○○ disease with family history of hypertension. <i>54th Annual meeting of American Cancer Association</i>, 2012 (口演) 2. Shiga H, Chiba A, Yamaguchi D, Osaka B, Nara B, Hyogo J, Shiga T. Impact of △△ in the patients with ○○ disease: a randomized clinical trial. <i>50th Annual meeting of American Cancer Association</i>, 2008 (ポスター) 3. ... <p><国内学会> 特別講演</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 滋賀 花子、山口 大介、兵庫 順次、滋賀 太郎. Impact of △△ in the patients with ○○ disease: a randomized clinical trial. 第 74 回日本外科学会年次学術集会、2017

	<p>2. 滋賀 花子 YIA 受賞講演 ○○の新規治療法の発見、第 60 回日本消化器○○学会、2015</p> <p>シンポジウム</p> <p>1. 滋賀 花子 ○○が発癌に与える影響に関する網羅的解析、第 80 回日本消化器内科学会年次学術集会、2019</p> <p>2. ...</p> <p>教育講演</p> <p>1. 滋賀 花子 ○○病の Up to date、第 76 回日本外科学会年次学術集会、2019</p> <p>2. ...</p> <p>一般演題</p> <p>1. 滋賀 花子、茨城 次郎、宮崎 礼、滋賀 太郎. レセプトデータを用いた○○病発症のメカニズムに対する探索的研究、第 76 回日本外科学会年次学術集会、2019 (口演)</p> <p>2. 滋賀 花子、滋賀太郎 新規治療薬 X の○○病における有用性の検討 第 75 回日本外科学会年次学術集会、2018 (ポスター)</p> <p>3. ...</p>
--	---

4) 研究費受入

- ・これまでの各省庁・財団などからの研究補助金の受入状況について記載する。
- ・代表と分担に分けて、公的助成、民間助成について、研究助成の名称・年・取得金額・研究課題名を記載する。間接経費のあるものは総額及び直接・間接の内訳を明記する。分担は配分額を記載。

4)	<p>研究費受入</p> <p><研究代表者></p> <p>公的助成</p> <p>1. 科学研究費 基盤研究(B) 2019-2021 年、総額 1781 万円 (直接 1370 万円、間接 411 万円) ○○に対する新規治療薬 X の作用メカニズムの探索</p> <p>2. 科学研究費 基盤研究(C) 2016-2018 年、総額 480 万円 (直接 367 万円、間接 113 万円) 日本人におけるメタボロミクス解析を用いた△□の分析</p> <p>民間助成</p> <p>1. ABSC 財団 2020-2021 年、総額 200 万円 ○○に対する根治療法の開発</p> <p><研究分担者></p> <p>公的助成</p> <p>1. CREST 2015-2020 年、総額 1000 万円 (直接 700 万円、間接 300 万円)、配分額 100 万円 ○○に対する革新的基盤研究 (研究代表者 山口 大介)</p> <p>2. AMED 2015-2018 年、総額 3000 万円 (直接 2100 万円、間接 900 万円)、配分額 200 万円 ビッグデータを用いた□△の分析 (研究代表者 滋賀 太郎)</p> <p>民間助成</p> <p>1. XYZ 財団 2019-2020 年、総額 300 万円 (直接 270 万円、間接 30 万円)、配分額 50 万円 ○○に対する自律的分析システムの確立 (研究代表者 兵庫 順次)</p>
----	---

5) 特許取得状況

- ・特許取得済と出願中に分けて、発明等の名称・番号・発明者・登録日あるいは出願日を記載する。

5)	<p>特許取得状況</p> <p>特許取得済</p> <p>1. 発明の名称：○○病診断プログラムの開発</p>
----	--

特許番号：特許第 XXXXXXXX 号

発明者：山口 大介、滋賀 花子、滋賀 太郎

〇〇株式会社、△〇大学

登録日：2018 年 月 日

特許出願中

1. 発明の名称：△■〇の発症リスク判定方法

出願番号：特願 2020-0XXXXX.

発明者：山口 大介、滋賀 花子、兵庫 順次、滋賀 太郎

〇〇株式会社、△〇大学

出願日：2020 年 月 日